

第三者評価結果の公表事項（児童養護施設）

①第三者評価機関名

有限会社 アウルメディカルサービス

②施設名等

名 称：	新天地育児院
種 別：	児童養護施設
施設長氏名：	梅里 伸正
定 員：	50名
所 在 地：	岡山県岡山市中区門田本町4-2-30
T E L：	086-272-3911

③実施調査日

平成 25年 2月 9日（土）～ 7月 17日（水）

④総評

◇特に評価が高い点

伝統ある施設とそれを守る職員の意識

児童福祉の先駆者である石井十次先生の精神を受け継いだ歴史のある施設である。「相手の立場に立って考え行動する」を理念に掲げ、男子3ホーム・女子2ホーム、小規模グループケア2ホームの長屋式小舎制、住み込み式の職員体制で家庭的な支援を行っている。職員は前院長の池田愛先生の考えである『母親時間』という信念を自然に受け継ぎ、1人1人の子どもと家族のように関わっている。住み込み式という勤務体制でストレスも多いと思われるが、この施設で働く事を誇りに感じ、互いに協力しながら支援を行っている。特に保育に力を注いでおり、担当職員は長い時間をかけて子どもの心を愛情で溶かすような支援を心がけている。また、院長、副院長の明るさがキーとなり、伝統は守りつつ、時代のニーズに合わせて形を変えていくことにも前向きに取り組んでいることが感じられる。

子どもの目線にたった様々な取り組み

子どもが楽しんで学習や運動、遊びなどに励むことができるよう色々な取り組みが実践されている。読書クラブでは子どもが院長室に訪れ、本を読んで聞かせ合格不合格のハンコをもらう、その週にあった一番楽しい出来事を作文にして提出する、前学期からの成績上昇率でご褒美付きの表彰式、ダンスクラブや冒険クラブ等のクラブ活動、ボランティアの先生によるピアノ教室等々、その取り組みは多彩である。また、通信カラオケを設置した部屋があり、子ども達が学校の友達を呼んで、一緒に楽しむことができるのも面白い取り組みである。

専門職の配置

最近の傾向として発達障がいを持つ子どもの入所が増えていることに対し、速やかな対応が行われている。平成22年心理棟を新築し、1階は図書館、2階にはプレイルームと心理面談室、ウッドテラスが用意されている。ここでは4名の臨床心理士が配置され、子どもに対する専門的な治療や対話を行っている。また、職員に対して子どもとの関わり方のアドバイス等も行っており、バーンアウトを理由とする職員の退職が減っている。家庭支援専門相談員や管理栄養士、保育士などそれぞれの専門職の意識が高く、子どもを中心にお互いに協力体制ができている。

◇改善が求められる点

地域との関係作り

地域の方との関わりを増やしていくことで、施設や子どもへの理解に繋がり、施設で育った子どもが暮らしやすい地域社会づくりへの足掛かりになると思われる。施設の敷地内の整備により地域の方が立ち寄りやすいイメージ作りなど期待している。

また、育児で困っている母親のためのサロン作りや地域の公民館などでセミナーを行うなど専門的な角度から育児のアドバイスができる体制作りの推進、地域住民も利用できるような心理棟の開放などいろいろな地域貢献のアイデアを副院長より聞くことができた。一歩ずつ前進し、実現に向かっていくことを期待している。

アセスメント、自立支援計画の作成

半年毎の自立支援計画の見直しをひとつの節目として、子ども本人の気持ちや将来への希望などを聞く機会を設けてはどうだろうか。ありのままを受け止め、少し先の未来について一緒に考えていく、子どもが主役となる自立支援計画の作成を検討して頂きたい。

退所に向けての準備や取り組み

子どもが退所し1人暮らしを始める時のために、調理などの生活面や金銭管理等について理解できるような取り組みを検討して頂きたい。退所までに一通りのことを知ることができるよう年齢に合わせた計画作りなどから始めてはどうだろうか。

災害対策

月1回、避難訓練を行っており、施設の防災意識は高い。今後、緊急時には地域の協力が必要となる可能性もあるため、地域の方が参加した避難訓練や災害対策への取り組みが望まれる。避難場所の提供など施設が考えている地域貢献についても説明し、お互いに協力できる関係を構築していただきたい。

⑤第三者評価結果に対する施設のコメント

児童養護施設の第三者評価の受審においては自信がもてるものではなかったが、私たち自身の養育を、第三者の方の目で客観的に評価していただくことの意義は大きかった。

アウルさんからの調査を受けることで「私たちのどこに強みがあって、どこに弱点があるのか」そんな振り返りのよい機会をもつことができたと思う。今後は評価結果を参考にしながら、子どもたちと一緒に素敵な施設づくりにチャレンジしていきたい。

⑥第三者評価結果（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

1 養育・支援

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果
① 子どもの存在そのものを認め、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止め、子どもを理解している。	a
② 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	a
③ 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	a
④ 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
⑤ 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>院長自身が幼少期に学童疎開で両親と離れて生活をしたことがあり、親と一緒に暮らしたいという子どもの気持ちをよく理解し、子どもの意思や感情を大切に受け止めている。職員は子どもと同じ目線で遊びや学びなど一緒に体験し、職員としてではない人としての関わりを心がけている。敷地は広く、グラウンドや体育館、心理棟など用意されており、子どもの発達に応じて活用している。</p>	

(2) 食生活	第三者 評価結果
① 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	a
② 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a
③ 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	b
(3) 衣生活	
① 衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを提供している。	a
② 子どもの衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
(4) 住生活	
① 居室等施設全体がきれいに整美されている。	a
② 子ども一人一人の居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	b

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

管理栄養士により子どもに合わせた食事が提供され、年4回の給食会議や給食だよりなど力を入れている事が分かる。入所時には偏食や色々な食べ物を知らない子どもが多く、毎日の食事におでんや鍋ものを加えたり、バイキングやお餅つきなど行事食を取り入れたりすることで、食事の幅が広がり楽しみになるように心がけている。嗜好調査や残食調査、食事時間に訪問するなどし、子どもの嗜好を把握し献立作りに活かしている。最近では保育時間帯に手作りおやつを提供しており、子どもからも好評である。また、学校からお腹を空かして帰ってきた子ども達が食べられるよう、厨房横の部屋に手作りのおにぎりを用意する等、家庭的な雰囲気を感じた。栄養について積極的な指導はしていないが、カップ麺の怖さなど折に触れて伝えている。

2か所の小規模グループでは一緒に食事を作ることもあるが、本人の意志を大切にしており、積極的に勧めていない。退所支援の一環として自分で健康的な食事を作ったり、食べたりすることができるよう計画的な支援を期待したい。

衣服はできるだけ子どもと一緒に買い物に行き、年齢や好みに応じてそろえている。季節感のある衣類を自分で選ぶことができるよう職員がフォローしている。

創設者のこだわりもあり、小舎制を継続している。それぞれのホームで担当職員が掃除や整理整頓を行っている。子どもの性格や相性を考えホームを決め、何かあればホームや環境を変える等も検討している。

(5) 健康と安全	第三者 評価結果
① 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	b
② 医療機関と連携して一人一人の子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	a
(6) 性に関する教育	
① 子どもの年齢・発達段階に応じて、異性を尊重し思いやりの心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>朝礼でインフルエンザやマダニによるウイルス感染など時期に合った話題を職員に伝え、その都度注意を促している。現在、発達障害を持つ子どもが多く、医療機関と連携を図り、一人一人に合わせた受診や服薬など支援を行っている。</p> <p>性教育について、年2回、大学より専門の先生を招き、子どもに対し勉強会を行っている。職員も外部研修に参加するなど意識をもち、必要時には個別に行っている。</p>	

(7) 自己領域の確保	第三者 評価結果
① でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	a
② 成長の記録（アルバム）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	b
(8) 主体性、自律性を尊重した日常生活	
① 日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちの問題として主体的に考えるよう支援している	b
② 主体的に余暇を過ごすことができるよう支援している。	a
③ 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>成長アルバムを個別に作り、退所時に本人に渡すようにしている。主に職員が管理し、普段子どもが見ることが少ない。自分で管理できる年齢になったら本人にアルバムを手渡し、自分で管理するようにはどうだろうか。</p> <p>小舎制、住み込み式で職員が配置されており、何気ない日常生活を一緒に過ごしたり、話したりする時間を大切にし、子どもの気持ちを尊重した支援を心がけている。お祭り、クリスマス会は、子どもが計画から参加する等、子ども自身が主体的に考え、体験や生活ができるように努めている。また、ピアノ教室、卓球、サッカー、カラオケなど余暇活動を充実し、出来る限りの支援をしている。</p> <p>幼稚園の頃から年齢に合わせて毎月お小遣いを手渡し、自分で管理できるよう支援している。その他には院長から個々の成績上昇や頑張りに対してご褒美が手渡され、子ども達の楽しみや意欲にも繋がっている。</p>	

(9) 学習・進学支援、進路支援等	第三者 評価結果
① 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
② 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
③ 職場実習や職場体験等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>勉強クラブや読書クラブがあり、1人ひとりの勉強をする意欲が高まるよう工夫している。高校生になると仕事をしてお金をもらうことの尊さを認識してもらえるように保険代理店、工場などの職場体験を積極的に行っている。8時間労働で2～3日、自分で自転車で通勤する等、仕事の大変さも体験させてもらえるよう企業に協力をお願いしている。体験後には大きい声で挨拶ができるようになる等の変化も見られる。子どもが進路や勉強に迷ったときには職員にじっくりと話を聞いてもらうことで自分で考え、自己決定ができるよう促している。</p>	

(10) 行動上の問題及び問題状況への対応	第三者 評価結果
① 子どもが暴力・不適応行動などの問題行動をとった場合に、行動上の問題及び問題状況に適切に対応している。	a
② 施設内で子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
③ 虐待を受けた子ども等、保護者からの強引な引き取りの可能性がある場合、施設内で安全が確保されるよう努めている。	a
(11) 心理的ケア	
① 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>発達障害を抱えた子どもが増えていることもあり、問題となる行動があった場合、病的な原因の有無を検討し、児童相談所、医療機関と連携を図り、最善の方法を取っている。平成22年に心理棟を設置し、臨床心理士が勤務している。心理的ケアが必要な子どもへの支援はもちろん、日頃の関わり方など職員へのアドバイスも行っている。</p>	

(12) 養育の継続性とアフターケア	第三者 評価結果
① 措置変更又は受入れに当たり継続性に配慮した対応を行っている。	a
② 家庭引き取りに当たって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰後の支援を行っている。	b
③ できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	b
④ 子どもが安定した社会生活を送ることができるよう退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>新天地まつりや秋の運動会、クリスマス会など大きな行事は毎年日時を変えずに行っている。そのため知らせなくても退所した子ども達が顔を出し、その後の生活や仕事の様子などの話や相談ができる場となっている。また、退所した子ども達が就職し、寄付金を振り込んでくれたり、ボランティアで施設の補修をしてくれたりするなど関わりが続いていることも多い。措置延長や措置継続の必要があれば、児童相談所と連携し適切に対応している。</p>	

2 家族への支援

(1) 家族とのつながり	第三者 評価結果
① 児童相談所や家族の住む市町村と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている。	b
② 子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に行っている。	b
(2) 家族に対する支援	
① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>子どもが育ってきた環境や親の生活状況、児童相談所の働きかけなど多方面から把握し、1人ひとりの子どもにとっての一番いい暮らしを考えながら、家族との関わりを行っている。また、家族からの養育に関する不安の声を聴き、職員から経験に基づくアドバイスも行っている。施設の行事にはできるだけ家族を招待し、家族交流ができる機会を作っている。できれば子育てに問題を抱える母親に対して、施設の職員が相談に乗り、専門的なアドバイスをしたり、心理棟にて専門的な面談を行ったりすることで、子ども達が入所することなく親子で生活ができるような地域支援をしていきたいと伺った。実現に向けて一歩づつ、進んで頂くことを期待します。</p>	

3 自立支援計画、記録

(1) アセスメントの実施と自立支援計画の策定	第三者 評価結果
① 子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、子どもの個々の課題を具体的に明示している。	b
② アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。	c
③ 自立支援計画について、定期的実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。	b
(2) 子どもの養育・支援に関する適切な記録	
① 子ども一人一人の養育・支援の実施状況を適切に記録している。	b
② 子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。	a
③ 子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>関係ケース会議にて個別に検討を行い、半年毎に自立支援計画の見直しを行っている。その際、子どもの健康状態や生活など記録し、見た職員は印をするなどし、情報を共有している。また、児童相談所と連携を図り一貫した支援を行っている。計画の中に子ども本人の意向や具体的な支援内容が少ないように感じた。子どもの発達に応じて一緒に作っていきけるような支援計画の作成を期待している。</p>	

4 権利擁護

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者 評価結果
① 子どもを尊重した養育・支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。	a
② 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	a
③ 子どもの発達に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	c
④ 子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。	b
⑤ 子どもや保護者の思想や信教の自由を保障している。	a
(2) 子どもの意向への配慮	
① 子どもの意向を把握する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、養育・支援の内容の改善に向けた取組を行っている。	b
② 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組む。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>毎月ケース会議を行い、子どもの今の生活状況や心理状態、投薬などの治療状況、高校などの進路、退所後の生活など職員同士で話し合い、本当にこれでいいのかを繰り返し検討している。子どもの要求そのままを受け入れることだけが権利擁護ではなく、子ども自身が自立し未来を作ることができるように支援していくことが大切だと考えている。</p> <p>子ども自身の出生や生い立ち等について積極的には伝えていない。本人の希望があるときには児童相談所と相談をし、心理面を配慮しながら伝える場合もある。子ども自身に知る権利があることとして、本人の発達に応じて自分の出生等について知りたいか知りたくないか問いかける機会を設けることを検討してはどうだろうか。</p>	

(3) 入所時の説明等		第三者 評価結果
①	子どもや保護者等に対して、養育・支援の内容を正しく理解できるような工夫を行い、情報の提供を行っている。	b
②	入所時に、施設で定めた様式に基づき養育・支援の内容や施設での約束ごとについて子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
③	子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	a
(4) 権利についての説明		
①	子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	c
(5) 子どもが意見や苦情を述べやすい環境		
①	子どもが相談したり意見を述べたりしたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。	a
②	苦情解決の仕組みを確立し、子どもや保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。	b
③	子ども等からの意見や苦情等に対する対応マニュアルを整備し、迅速に対応している。	b
(6) 被措置児童等虐待対応		
①	いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a
②	子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
③	被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	b
(7) 他者の尊重		
①	様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点)		
<p>子どもたちが相談したり、意見を述べやすいような関係作りや環境作りに取り組んでいる。担当の職員に話しづらいときには、他のホームの職員に話したり、意見箱に投書したりすることができる。敷地内の石井十次記念聖園には年間約500名の見学があり、子どもが来訪者と挨拶をするなどの触れ合いも多い。また、児童養護施設間交流で運動会、スポーツの大会もあり、他者を尊重する心を培っている。高齢者施設への慰問などお年寄りと触れ合うことも慈しみの心をもつきっかけになると思われるので、機会を作って頂きたい。子ども自身が持っている権利について発達に応じて個々に説明する時間をもつことも必要ではないだろうか。</p>		

5 事故防止と安全対策

		第三者 評価結果
①	事故、感染症の発生時など緊急時の子どもの安全確保のために、組織として体制を整備し、機能させている。	a
②	災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	b
③	子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策の検討を行い、子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実施している。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点)		
<p>パトロール班を作り、毎月1回環境チェックを行っている。感染症に対する対策や災害時の体制、事故等への対応が整備されている。</p> <p>避難訓練は毎月実施している。年1回、消防署の指導も受けている。地域の方に対してお知らせなどは今の所していない。地域の協力が必要になる事も考えられるため、地域の方が参加する避難訓練も検討して頂きたい。災害時には避難場所として施設のスペースの提供や炊き出し等、社会福祉法人として地域への貢献を考えている。</p>		

6 関係機関連携・地域支援

(1) 関係機関等の連携	第三者 評価結果
① 施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。	a
② 児童相談所等の関係機関等との連携を適切に行い、定期的な連携の機会を確保し、具体的な取組や事例検討を行っている。	b
③ 幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校など子どもが通う学校と連携を密にしている。	a
(2) 地域との交流	
① 子どもと地域との交流を大切にし、交流を広げるための地域への働きかけを行っている。	b
② 施設が有する機能を地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。	b
③ ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、受入れについての体制を整備している。	a
(3) 地域支援	
① 地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取組を積極的に行っている。	c
② 地域の福祉ニーズに基づき、施設の機能を活かして地域の子育てを支援する事業や活動を行っている。	c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>児童相談所、各学校等と連携を図り、子どもの養育や発達に対し共通の理解を持った取り組みがなされている。家庭支援専門相談員が窓口となり、ボランティアの受け入れ体制ができている。水槽の掃除をしてくれる方やお花を植えて持ってきてくれる方、話しをしに来てくれる方、書道や絵画、ピアノ、ダンスなど教えてくれる方など色々な方から温かい支援をもらっている。地域との交流は少なく、イベントを開催してもなかなか参加してくれないのが現状である。今後も施設の環境整備など地域の方が訪れやすい関係作りに向けての努力を期待している。</p>	

7 職員の資質向上

	第三者 評価結果
① 組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	a
② 職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	b
③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行い、次の研修計画に反映させている。	b
④ スーパービジョンの体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術の向上を支援している。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>職員にとって何かの役に立つと思われる研修であればSBI子ども希望財団の研修など県外の研修にも積極的に参加を促している。日頃、業務やその場の対応に追われてしまいがちだが、外部研修に参加することで外からの目線を持ち、どういう方向性で仕事をしていきたいかを改めて考えるいい機会となっている。一人一人の職員が指示を待つのではなく、前向きに自分で多方面から物事を捉え、子どもと向き合い支援しているのが感じられる。</p>	

8 施設の運営

(1) 運営理念、基本方針の確立と周知	第三者 評価結果
① 法人や施設の運営理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。	a
② 法人や施設の運営理念に基づき、適切な内容の基本方針が明文化されている。	a
③ 運営理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	c
④ 運営理念や基本方針を子どもや保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	c
(2) 中・長期的なビジョンと計画の策定	
① 施設の運営理念や基本方針の実現に向けた施設の中・長期計画が策定されている。	b
② 各年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して策定されている。	b
③ 事業計画を、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。	b
④ 事業計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
⑤ 事業計画を子ども等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>施設の運営理念として「相手の立場に立って考え、行動する」が掲げられ、会議や研修など折に触れて説明を行い、意識づけを行っている。各年度において目標設定や事業内容を職員で話し合い、事業計画に反映されている。長期的なビジョンとして、特別養護老人ホームの併設によるトータルな福祉の提供や小規模グループケア化による支援の充実などを挙げ、検討を行っている。</p>	

(3) 施設長の責任とリーダーシップ	第三者 評価結果
① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、専門性に裏打ちされた信念と組織内での信頼をもとにリーダーシップを発揮している。	a
② 施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。	a
③ 施設長は、養育・支援の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。	a
④ 施設長は、経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。	a
(4) 経営状況の把握	
① 施設運営をとりまく環境を的確に把握するための取組を行っている。	a
② 運営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取組を行っている。	a
③ 外部監査（外部の専門家による監査）を実施し、その結果に基づいた運営改善が実施されている。	a

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

院長は、自らの役割と責任を文書化した心得を作成している。子どもの幸せを第一に考え、リーダーシップを発揮し、職員を指導している。また、新天地育児院の伝統を受け継ぐと同時に、時代に合わせてより発展させていこうとする積極性も感じられる。経営面では毎年、公認会計士による外部監査がおこなわれ、運営状況をより専門的かつ客観的に明らかにし、改善課題の発見に努めている。

(5) 人事管理の体制整備	第三者 評価結果
① 施設が目標とする養育・支援の質を確保するため、必要な人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。	a
② 客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が行われている。	b
③ 職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善に取り組む仕組みが構築されている。	b
④ 職員処遇の充実を図るため、福利厚生や健康を維持するための取組を積極的に行っている。	b
(6) 実習生の受入れ	
① 実習生の受入れと育成について、基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等積極的な取組をしている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>臨床心理士や家庭支援専門相談員など専門職を採用し、施設が目標とする支援体制の整備、実践に努めている。長屋式小舎制、住みこみ式で支援しており、職員にとって身体的、精神的にも大変な勤務体制だが、職員は子どもと精一杯コミュニケーションを図り、施設の伝統を守る意識を持っている。職員の様子を見ながら随時個人面談を行い、個々の希望や意見など聞いている。実習生の受け入れ体制も整備されており、保育士や社会福祉士、介護体験など年間20名程度受け入れている。</p>	

(7) 標準的な実施方法の確立	第三者 評価結果
① 養育・支援について標準的な実施方法を文書化し、職員が共通の認識を持って行っている。	a
② 標準的な実施方法について、定期的に検証し、必要な見直しを施設全体で実施できるように仕組みを定め、検証・見直しを行っている。	b
(8) 評価と改善の取組	
① 施設運営や養育・支援の内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制を整備し、機能させている。	a
② 評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にし、改善策や改善実施計画を立て実施している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>基本的な養育・支援マニュアルは作成しているが、最近発達障害を持つ子どもが多いため、一人一人に対して養育、支援の方法を検討し、職員が共有できるよう文書化している。自己評価は毎年2～3月に作成し、見直しを行っている。</p>	